

プーニのいえ



あおい あおい うみのなか。
ちいさな ミドリフグが ぶかり ぶかりと およいで いました。
なまえは プーニ。
そこへ ヤドカリが とことこと やってきました。
「ヤドカリさん。どこへいくの？」
「わたしは あたらしい いえを さがして いるのさ」



「いえって どんな ものなの？」

「いえというのは ひとり ひとり ちがうものさ」

「そのいえは どこにあるの？」

「それは じぶんが いちばん すなおに なれるところさ」

「いいなあ。ぼくも そんな いえが ほしいな！」

プーニは さっそく じぶんのいえを さがしに ゆきました。



しばらくすると きれいな かいがらを みつけました。

「いえって こんな かたち なのかな」

けれど プーニは そのなかに うまく はいれません。

「きっと ぼくに あった かたちが あるんだ」

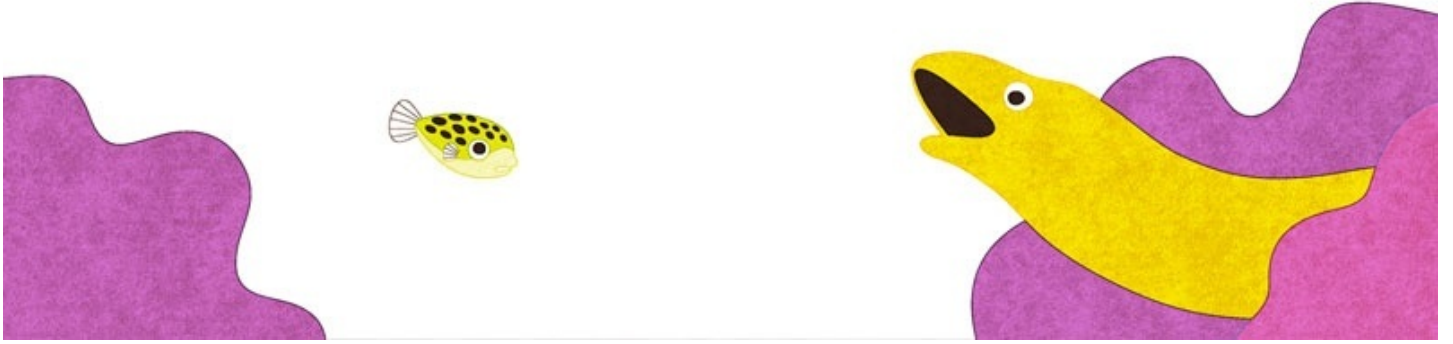
プーニは しかたなく ほかの いえを さがしに ゆきました。



イソギンチャクから クマノミが ひょっこり かおを だしました。
「やあ、クマノミくん。きみのいえは どのなの？」
「ぼくは この イソギンチャクと いっしょに くらしているんだ」
「いいなあ。ぼくも いっしょに くらしたいな」
「きみには もっと ひつようと してくれる ところがあるさ」
プーニは しかたなく ほかの いえを さがしに ゆきました。



いわの かげから グーグーと いびきが きこえたので いってみました。
すると なかから ヒメウツボが によろりと かおを だしました。
「だれよ！あたいの ねむりを じゃまする やつは！」
「ごめんなさい！ぼく じぶんのいえを さがして いるんだよ」
「いえって ねるところ でしょう？それなら どこにでも あるじゃない」
プーニは しかたなく ほかの いえを さがしに ゆきました。



サンゴのもりで ともだちの プーチャに であいました。

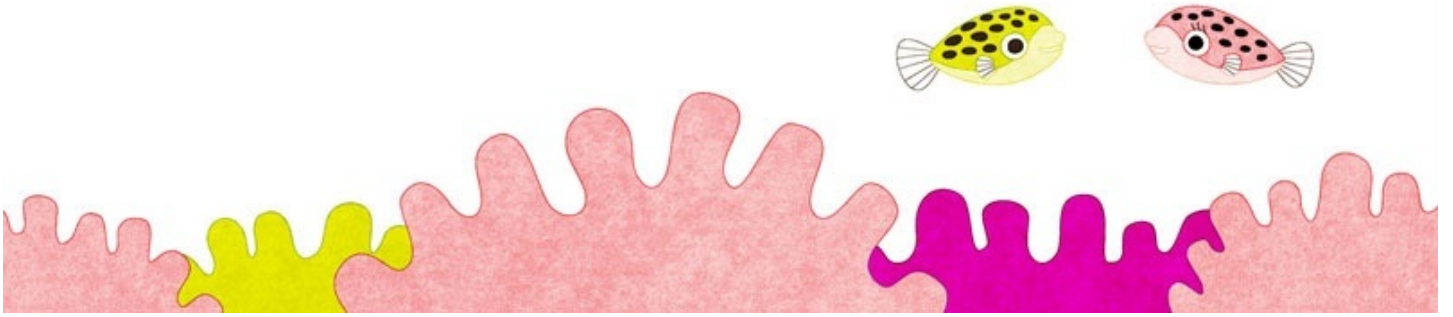
「あら プーニ。ここで なにを しているの？」

「ぼく じぶんの いえが ほしんだ。でも なかなか みつからなくて…」

「それなら わたしも いっしょに さがして あげましょうか？」

「ほんとに？ありがとう！」

こうして プーニとプーチャは なかよく いえを さがしに ゆきました。



うみのなかでは おひさまの ひかりが あおく かがやいて みえます。

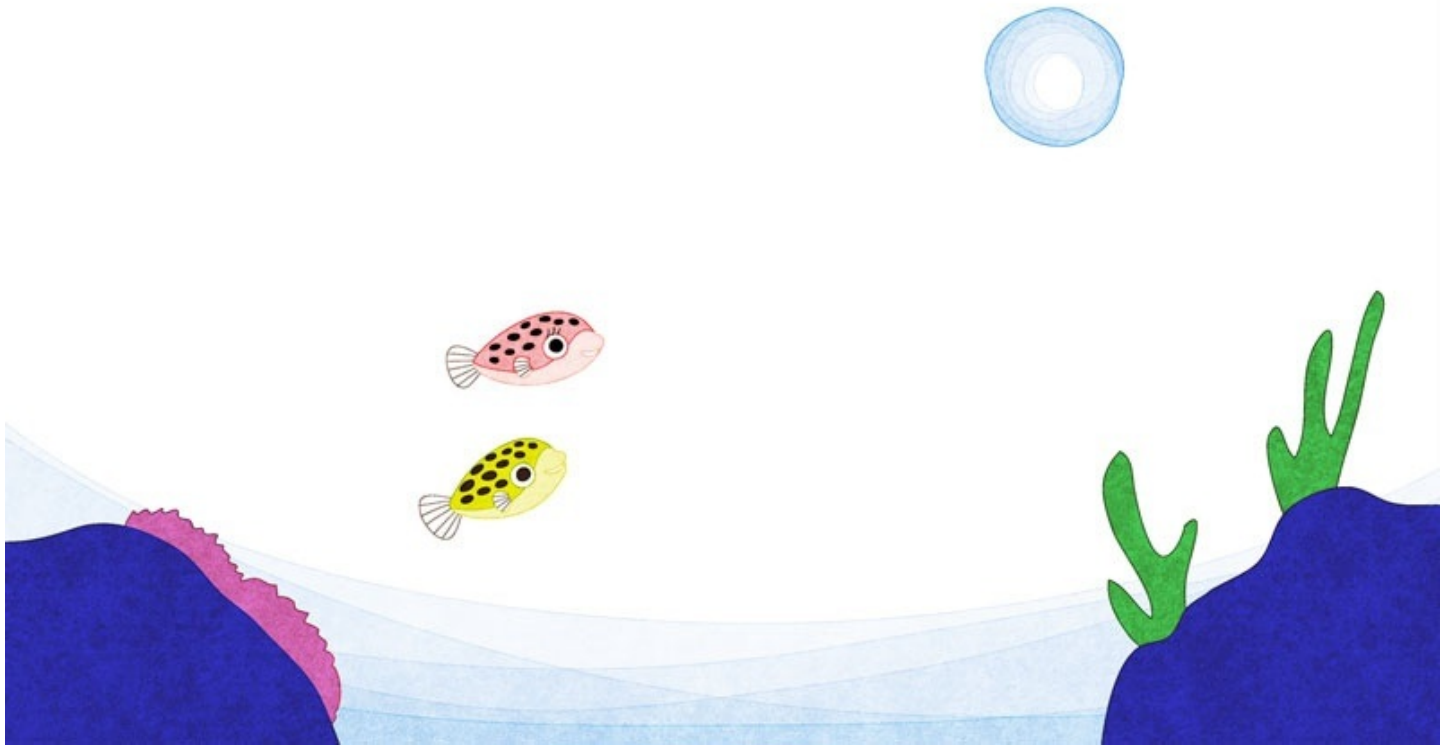
プーニは それを みるのが だいすきでした。

「キラキラして とても きれいだね」

「あおい おひさまは ここでしか みられない もなのよ」

「そこでしか みられない けしきって あるんだね」

ふたりは のんびりと ひかりに むかって ゆきました。



ふたりが あおい おひさまに みとれていた そのときです。

ざぶーん！

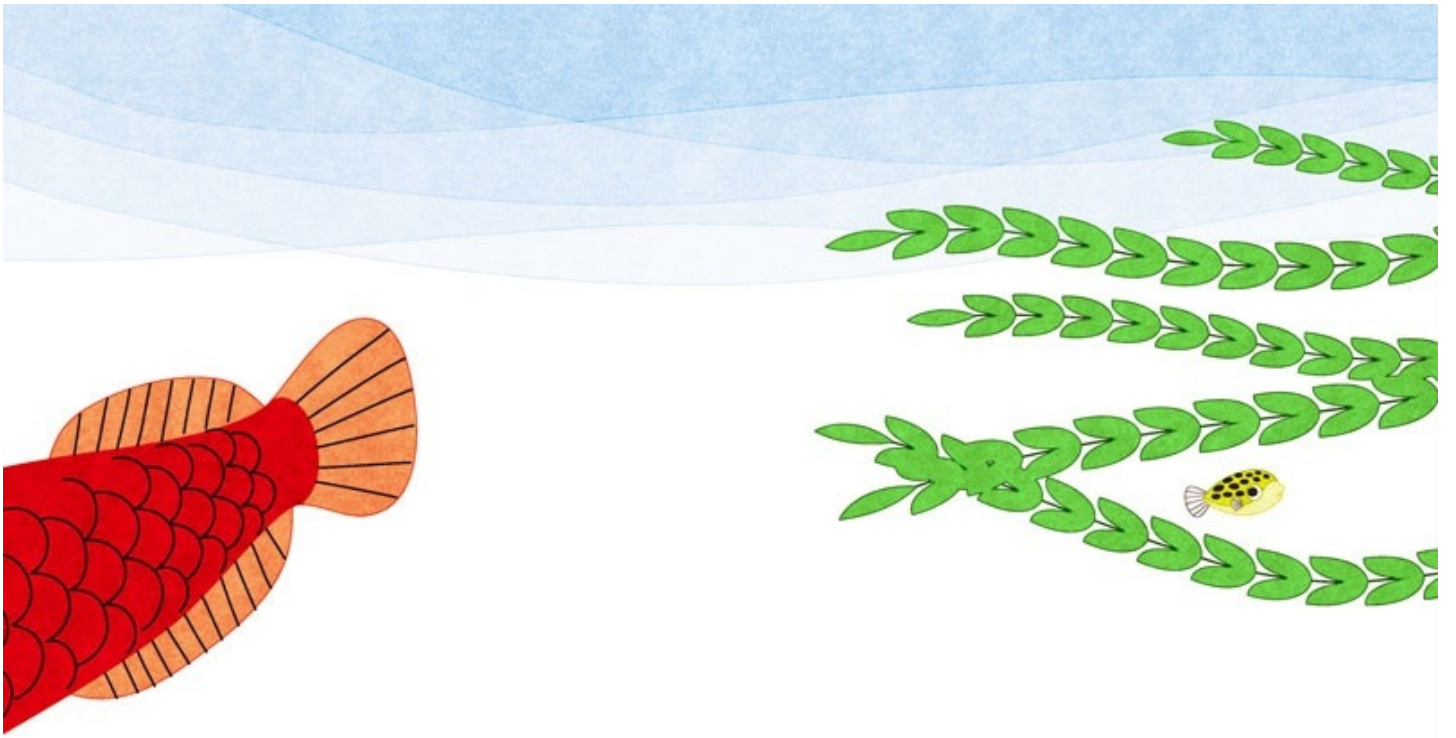
とつぜん まっかな アロワナが ふた리를 おそってきました！

「あぶない プーチャ！きみは あっちへ にげるんだ！」

プーニは プーチャを まもろうと アロワナに むかって ゆきました。



アロワナは おおきな からだを ゆらゆら ゆらして おってきます。
このままでは すぐに たべられて しまいそう。
プーニは いそいで みずくさの かげに かくれました。
すると アロワナは そのまま とおくへ いってしまいました。
「ああ たすかった。だけど プーチャは だいじょうぶかな」
プーニは あわてて プーチャを さがしに ゆきました。



あちらこちらとさがしたけれど プーチャは どこにも いません。
「もしかして アロワナに たべられて しまったのかな」
もう プーチャには あえないかも しれないと おもうと なけてきました。
「このまま プーチャと さよならなんて いやだ！」
すると そのときです。
どこからか プーチを よぶ こえが きこえてきました。



そのこえは プーチャでした。

プーニは いそいで プーチャの そばに いきました。

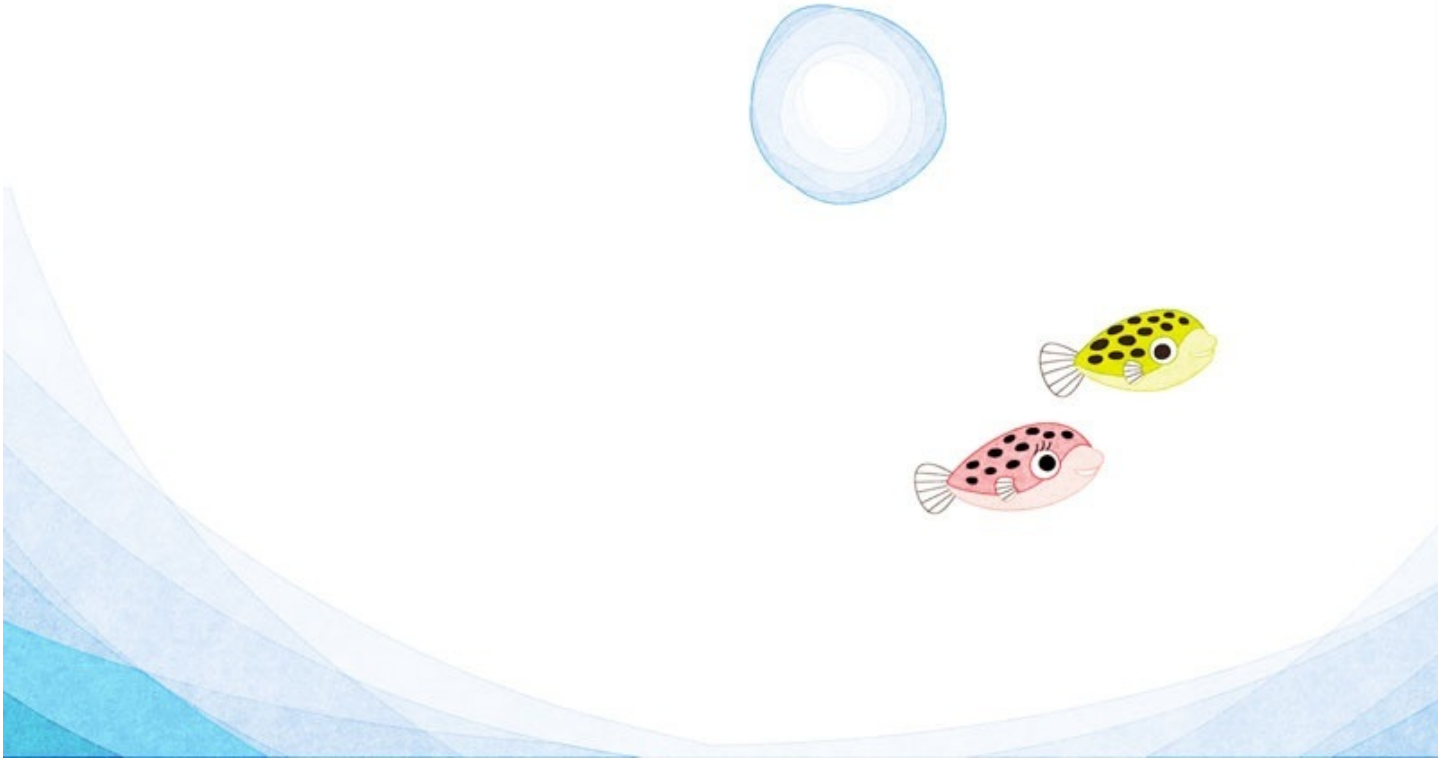
「プーチャ！ぼく わかったよ」

「よかった。いえが みつかったのね？」

「きみがいる ここが ぼくのいえさ。きみと いろんな けしきを みて いきたい」

こうして プーニとプーチャは いつまでも いっしょに およいで ゆきました。

あおい おひさまが みまもる うみのなかで。



この本の著作権は作者に帰属します。

Copyright © 2010 sei@wonderland All Right Reserved.

<http://www.seiawonderland.net>